

# サッカーの街横浜

企画局ワールドカップサッカー推進課

吉田 剛

私はJリーグ開幕当初から清水エスパルスのファンだ。こういう話をするとたいいていの人から「なぜ清水のファンなの?」と聞かれる。北陸出身で、現在横浜市に勤める私と清水とは、何の関係もないからだ。

私が清水を応援する理由はいくつかある。好きな選手がいたことも理由の一つだが、もっとも大きな理由はチームの成り立ちそのものにある。Jリーグが発足したとき、ほぼすべてが日本リーグで活躍していたチームが母体となって結成されたが、唯一清水だけは母体となる企業チームを持たず、「市民球団」としてゼロからスタートした。開幕当初こそ各スタジアムが満員になったものの、その後観客

動員数は減少し、清水は九七年から九八年にかけてチーム存続の危機に立たされた。その危機を乗り切ることができたのは、数多くのサポーターのバックアップがあったからである。

そうしたチームだからだろうか、清水の市民にとってエスパルスは「自分たちの街のチーム」という意識がとても強いように思う。例えば、ホームスタジアムで試合が行われる日には、街中の至る所にチームフラッグが掲げられている。駅前や大きな通り沿いは勿論のこと、一般の民家の軒先にもオレンジの旗がなびいている。また、レプリカユニフォームを着て歩いていると、街のあらゆるところで声をかけられる。「今日はどこと試合をやるの?」「最近\*\*選手、あまり調子よくないよね」等々；街の人々がチームに関心を持ち、応援し、盛り上げていこうという気持ちが伝わってくる。

街全体でチームを支えているという姿勢がもっとも強いチームが清水エスパルスであり、それが、私が清水を応援している理由でもある。

そもそもJリーグは「百年構想」という理念のもとで発足した。従来の企業スポーツの概念を破り、スポーツ文化としてのサッカーの振興をはかることをその大きな目的としている。また、ホームタウン制を基本とし、それぞれの街でスポーツを核と

した地域交流の場所づくりをし、多くの人々とこの理念を共有しながら実現していこうと考えている。将来的には日本中のあちこちに芝の広場があり、そこで多くの人々がスポーツをしながら楽しめるというのがこの百年構想の「夢」でもある。

さて、こんな私が横浜市に就職し、最初に配属されたのがワールドカップサッカー推進課だった。自分がワールドカップに関われるなんて夢のようで、辞令をいただいた瞬間、心の中で大きくガッツポーズを取ったのは言うまでもない。それから、ただ「サッカーが好きだ」という情熱だけで今日までがむしゃらに走り続けて来た。

ワールドカップを開催する意義は沢山あると思う。日韓交流の促進や経済効果等々；そうした中で私が特に力を入れたと考えているのは、サッカーを横浜の街に根付かせ、サッカーの街、スポーツの街として横浜の名前を世界に知ってもらうことだ。横浜という街は港や中華街、みなとみらいなど、魅力的な要素を数多く持っている。こうした横浜の魅力の一つに「サッカー」も加えることができれば、より多くの人々に横浜の名前を知ってもらえるのではないだろうか。百年構想の「夢」とされている部分を日本で最初に横浜が実現できればよいなあと思勝手に夢を膨らませている。

## あとがき

今回の特集は、二〇〇二年ワールドカップサッカー大会に照準を合わせ、コンベンション都市の推進、スポーツ文化の振興、日韓交流等の多角的視点から様々な立場の方々にご執筆、御発言いただいた。

九月二十日、シドニー五輪で、サッカー日本代表は三十二年ぶりの決勝トーナメントへの出場を決めた。決勝トーナメント第一戦でアメリカに惜敗したが、明らかにその実力は世界のトップチームと互角に戦えるまでに成長していた。

その中で、中心的役割を果たした中村俊輔は、シドニー出発直前、少年時代からのサッカー環境を振り返って「師匠に恵まれたよ」と語っていた。一人のトップアスリートが誕生する背景には、本人の資質や努力と同時に多くの人々の有形・無形の支援があったし、また、誕生したことによって多くの影響を周りに与えている。葺崎出身のナカタは今や世界のナカタとして日本のサッカーをアピールし、横浜の中村も世界のサッ

カーに手が届こうとしている。中村を生み出した環境は「横浜育ちのJリーガー」でふれたが、戸塚区在住の少年時代からオアッサに遠征に出かけるなど世界を体験しており、横浜のサッカー文化の国際的な面も見逃せないのではないかと、と思う。

何よりもサッカーをするのが楽しかったという少年時代は、「努力なんていうことではないよ」とも言っていた。サッカーの祭典ワールドカップが、多くの少年たちに外に向けた開放感を存分に与え、日常的な楽しみみの場を豊富に生み出すきっかけとなってくれば、と思う。ハ中川

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「自主研究レポート」への投稿をお待ちしています。

応募される方は、事前に研究の概要をA4紙三枚以内にとめて企画局政策部調査課までお送りください。FAX 六六三・四六二三 お問い合わせは、電話 六七・二〇二九

●第140号(一九九九年十二月)

特集・多様化する教育環境と社会

1 子育て・学校教育を取り巻く現状と今後の方向性

—— 汐見稔幸

2 教育改革とその変革の視点

—— 寺脇研

3 子どもの教育環境とその変化への対応

①子どもたちの今々青少年基本調査より

—— 渋谷和生

②データで見る学校教育

—— 教育委員会事務局総務部企画課

③変わる教育観と「ゆめはま教育プラン」

—— 「まち」ともに歩む学校づくり

—— 両角英之

4 家庭・学校・地域の連携への取組み

①「ひらかれた学校・大岡」の取組み

—— 子ども、家庭・地域、教職員で創る新しい学校の姿

—— 斉藤一弥

②まちと共に歩み自分が輝くクラブ活動

—— 子どもとの存在を最優先する学校づくり

—— 佐々木孝

③緑園都市スクールふれあいネット

—— 地域イントラネットの活用

—— 松浦淳

5 多様化する教育環境

①多様化する教育対応システム

—— 横浜の先駆性とその後を踏まえて

—— 永田實

②私立中高一貫校の表現

—— 座談会・教育が変わり、社会が変わる

—— 本間勇人

—— 丹羽健夫・浅井経子・浜野克彦・岡本勝利・南学

自主研究レポート／市民の目から見た区役所窓口サービスのあり方とその改善

—— 都筑区窓口サービスプロジェクト

—— 中村聰ほか

新鮮力／21世紀・横浜開化

—— 喜多麻子

●第141号(二〇〇〇年三月)

特集・自治体における合意形成

1 鼎談・なぜ、合意形成か

—— その時代背景とあり方

—— 家田仁・卯月盛夫・金田孝之

2 都市施設と合意形成

①ドキュメンタリー・住民参加の道路づくり

—— 山本文雄・浜野四郎・杉山正美

②計画レベルの住民参加の一考察

—— 山本文雄

③施設設計計画のあり方と説明責任

—— 北部方面斎場建設事業

—— 編集部

3 地域施設の建設・運営と合意形成

①神奈川リサイクルコミュニティセンター

—— 市民参加による施設整備から事業運営へ

—— 松山弘子・赤荻道子・川口宏・宮川雄三

②使える洋館・体験できる洋館

—— 「山手234番館」

—— 大野裕子・五島哲夫

③コミュニティ施設の利用と合意形成

—— ターと神奈川区区民利用施設協会の取組

—— 牧野迪代・深沢啓子

④新治市民の森の愛護会づくり

—— 地権者と利用者の合意形成

—— 田並静

⑤重症心身障害者の通所施設「朋」の運営とまち

—— 地域資源としての障害者施設

—— 編集部

4 合意形成を支える地域運営のしくみ

①行政と地域活動団体との新たな関係づくり

—— 保土ヶ谷区地域・まちづくり活動支援事業

—— 鈴木隆

②区による新たなまちづくり

—— 都市計画マスタープラン・区プランの策定を契機として

—— 武井伊織・鶴田傑・斎藤直子・小西真樹

③身近な地域社会の合意形成の土壌を耕す

—— 坂田弘太郎・大野木秀子・白川修己・村上佳江・加藤隆章・小林康夫・関口昌幸

5 横浜市における様々な合意形成

—— 編集部

新鮮力／横浜の元気を受け継いで

—— 山本有紀子

●第142号(二〇〇〇年六月)

特集・21世紀の地域産業政策

1 自治体の地域産業政策

—— 成熟した高齢社会の到来を前にして

—— 関満博

2 座談会・今、横浜に求められる産業政策とは

—— 草野恵一・関満博・前田壽

3 雇用の拡大に向けた地域産業政策と街づくり

—— 宮坂彰志

4 新産業創出への取組

①横浜市の新産業育成・支援策

—— 今富雄一郎

②産学連携の新たな展開と横浜市における連携支援システム

—— 中島泰雄

③福祉関連(高齢社会対応型)サービス業成長支援事業

—— 八巻善賢

④SOHOKOHAMAインキュベーションセンター

—— 齋藤裕美

5 地域産業政策と街づくり

①京浜臨海部の再編整備と工業制限諸制度の見直し

—— 長谷川政男

②大型店と商業振興

—— 浦崎真仁

③横浜の観光振興

—— 「三つのChance, Challenge & Change」

—— 増田文彦

④横浜市の企業誘致

—— 石田正

⑤21世紀の横浜港湾関連産業の振興へ向けて

—— 渡邊圭祐

自主研究レポート／横浜市の社会資本の生産力効果について

—— 最過水準と効果的投資分野の検証

—— 森隆司

新鮮力／記憶をつなぐ

—— 中尾光夫

# 調査季報

# 143

2000年9月

編集・発行  
横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017横浜市中区港町1-1  
TEL.045-671-2029  
2000年 9月 30日発行

横浜市広報印刷物登録  
第120139号  
類別・分類A-BA011  
デザイン サウスピア  
印刷 株式会社ガリバー

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙（古紙混入率70%）を使用しています